

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
122BT31	交通心理学	不確かな人間の感覚・知覚・記憶	佐古 仁志	1 年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	交通事故、ヒューマンエラー、知覚、認知		
ディプロマポリシーとの対応	2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目	心理学				
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法	教員の短大メールアドレス				
講義の目的	交通心理学の成り立ちを学びながら交通事故の原因と対策をすることで、交通事故減少のための手段を身につける。またヒューマンエラーについて基礎的知見を知ることで、私たちの感覚・知覚・意思決定・記憶などが自分が考えている以上に不確かなことを理解し、交通分野を含む社会生活で活用するための基礎知識を養う。				
到達目標	講義を通じて、交通事故についての理解を深めるとともに、ヒューマンエラーに関する基本的な知識を身につけ、日常生活に活かすことができるようになることが目標である。単に知識を学ぶのではなく、毎回のリアクションペーパーの作成を通じて、授業内容が日常生活でどのように働いているのかを実感することで、さまざまな場面へと応用が可能となる。				
講義内容	まず、交通心理学の歴史と原因、対策について確認する。それから、交通事故の主要な原因であるヒューマンエラーについて、知覚、感覚、身体、意思決定、バイアス、記憶の観点から考察し、最後に、それまでの講義を踏まえて、交通事故における環境とモラルについて検討する。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	ガイダンス	ガイダンス・交通心理学の歴史		
	第2講	交通事故と対策1	交通事故の原因と対策について		
	第3講	交通事故と対策2	心理特性について		
	第4講	交通事故と対策3	リスク知覚と行動について		
	第5講	まとめ1	交通事故と対策のまとめ		
	第6講	ヒューマンエラー1	知覚の誤りについて		
	第7講	ヒューマンエラー2	感覚の不確かさについて		
	第8講	ヒューマンエラー3	身体や感情の影響について		
	第9講	ヒューマンエラー4	合理的判断と意思決定について		
	第10講	ヒューマンエラー5	思い込みとバイアスについて		
	第11講	ヒューマンエラー6	記憶の不確かさについて		
	第12講	まとめ2	ヒューマンエラーのまとめ		
	第13講	交通事故と社会1	システムと環境・構造について		
	第14講	交通事故と社会2	交通モラルについて		
第15講	まとめ3	全体のまとめ			
指導方法	講義形式。ただし、授業冒頭に前回まとめとリアクションペーパーへ応答を行い、授業の最後にリアクションペーパーの作成と質問の時間を設ける。				
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテーマについて予習し、課題をもって授業に臨むこと。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
事後学習	授業後の事後学習として、参考文献を調べ、自分で考察をリアクションペーパーとして提出すること。そうすることで、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
成績評価方法	平常点40%（出席＋リアクションペーパーの提出） 期末試験60%				
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法	各回の授業冒頭および google クラブルーム				
テキスト	なし。適宜資料を配布する。				
参考文献	蓮花一己ほか著『交通心理学（改訂版）』（放送大学教材、2017年）、D.A.ノーマン『誰のための心理学 増補・改訂版』（新曜社、2015年）、太田信夫監修『交通心理学』（北大路書房、2017年）、一川誠著『ヒューマンエラーの心理学』（ちくま新書、2019年）、一川誠著『交通心理学入門』（企業開発センター 交通問題研究室、2017年）ほか				
実務家教員による授業		教員 経 歴			
特記事項	特になし				